

- 北海道におけるインバウンドの課題である地域間・季節感の旅行需要の偏在緩和に向けて、外国人観光客の動態データを継続的に把握し、地方公共団体や観光関係団体等と共有することで、外国人ドライブ観光を促進する「北海道ドライブ観光促進プラットフォーム」を開催。



- 日 時 令和5年7月26日(水) 15:00~17:00
- 会 場 札幌国際ビル 国際ホール (WEB配信併用)
- 参加者数 会場42名 (行政関係者、観光関係者)、WEB 53名 合計95名

議題1 外国人ドライブ観光客の周遊・滞在実態について

北海道開発局 開発監理部 開発連携推進課



- ・令和4年10月の水際対策の緩和後、インバウンドが徐々に戻りつつあり、コロナ禍の影響により一時停止していた外国人観光客の測位データの会員向け提供を再開した。
- ・水際対策緩和後の四半期ベースと比較してもまだ完全には回復していない状況で、主要な観光地では滞在データが測位されている一方、地方部では測位データ取得が余りできていない。
- ・レンタカー貸出数データによると、シンガポールや欧米豪からの観光客への貸出数が多く、ドライブ観光が順調に回復している傾向がある。
- ・外国人観光客の地域・季節偏在の緩和に向け、当プラットフォームの構成員が一丸となって外国人ドライブ観光の促進に臨む必要性がある。

議題3 インバウンド視点からみた効果的な情報発信

— HokkaidoWilds.orgを事例に —

北星学園大学 文学部 英文学科 准教授 ロバート トムソン氏

- ・英語話者のインバウンドを対象としたHP「HokkaidoWilds.org」を設立し、北海道のアウトドアに関する情報を発信している。
- ・旅行者が来なくなる情報、訪問時に役立つ情報が重要。まともな情報を発信したら旅行者は来てくれる。
- ・サイト利用者像を明確にし、一つ一つの情報を、念入りに取材して情報提供すると良い。
- ・サイト全体を完成させてから公開するのではなく、公開してから順次追加していく方が長期的な視点では良い。
- ・本格的な旅行経験のある人にデザイン・コンテンツ作成に関わってもらうことが重要である。



議題2 【クロストーク形式】共創による観光DX支援 (株)JTB 矢吹 伸幸 氏



【JTBが関わった共創事例の紹介】

- ・JTBでは、行政や観光事業者と一緒に地域課題の解決に向け、DXを進めている。
- ①山口県・福岡県「関門DMO」：「関門海峡コンテンツプラットフォーム」を構築し、観光情報、経路検索等を利用出来るサービスを提供
- ②栃木県「日光MaaS」：日光東照宮での導入を契機にエリア全体での電子チケット化の促進
- ③熊本県「くまモンランド化構想」：音声ナビを活用した「くまモンレンタカー」による周遊促進
- ④長野県「もみじ湖（箕輪ダム）周辺の交通渋滞緩和」：駐車場の完全予約制、シャトルバスの運行により、渋滞の緩和、オーバーツーリズムを解消
- ⑤三重県「海女小屋はちまんかまど」：JTB BÓKUNの活用により、自社HP（英語）への流入強化の仕組みの構築と地域内横展開

(株)ナビタイムジャパン 藤澤 政志 氏



- ・レンタカーを活用した観光は、移動の課題を解決できるが、一方で周遊・滞在の機会を逃している部分もある。
- ・路線バスを活用したセルフガイドツアーという手法もあり、ドライブ観光にも応用できると思う

クロストーク 矢吹 氏 × 藤澤 氏

- ・受付業務や在庫管理の負担軽減、ノーショウ問題等の課題解決からもデジタル化の推進が必要であり、観光事業者のデジタルリテラシーの向上が重要である。
- ・セルフガイドツアーは、特にインバウンドのガイド不足への対応策になり得る。
- ・北海道でも多数のコンテンツやチケットが販売されており、地域プラットフォームのような形で連携できるとよい。

